

# 週報みえぎよれん

★浜に身近な話題をお届けする関係者向けミニ情報誌★

編集・発行

JF 三重漁連指導部

TEL:059-228-1205

FAX:059-225-4511

本紙は三重漁連ホームページ(<http://www.miegyoren.or.jp/>)での閲覧を推奨します(PDF ファイル)。

## 『漁業経営セーフティーネット構築事業』

第 2 四半期受付は 8 月末まで (漁業用燃油)

漁業経営セーフティーネット構築事業は、漁業用燃油と養殖用配合飼料の高騰対策として、それらの平均価格が一定の水準を超えた場合に、漁業者と国が予め積み立てた範囲内で補てん金を交付するもので、漁業経営への影響を緩和することを目的に、平成 22 年度から開始されました。

### 【漁業用燃油】

今年 5 月末に東京で開催された「全国漁業代表者集会」等を通じて、政府に燃油高騰対策の拡充の要望活動を行った結果、本年度 7 月から新たな補てん基準が設けられました。

これまでの補填方法は、該当四半期の平均原油価格が過去の平均原油価格を超えた場合、漁業者と国が半額ずつ (漁業者:国=1:1) 補填金を負担する仕組みでした。

さらに今回、本年 7 月から平成 26 年度末までの緊急特別対策として、該当四半期の平均原油価格が 62 円/ℓ (A 重油換算値 95 円/ℓ) を超えた場合に、その超えた部分の補填金について、負担割合が漁業者:国=1:3 (国が漁業者より 3 倍多く負担) とする基準が設けられました。

ただし、この特別対策の支払いを受け

るためには、以下の要件があります。

①資源管理計画又は漁場改善計画に取り組み参加していること。

②省エネ計画を策定・実施すること。

また、従来この事業の申込みは年 1 回だけでしたが、本年度に限り 8 月末、10 月末、12 月末の 3 回加入申し込みが出来るようになっていきます。

### 【養殖用配合飼料】

漁業用燃油のような本年度期中加入はできません。加入したい方は来年 1~3 月が受付期間となり、平成 26 年度からの適用となりますのでご了承ください。

なお、これまで「輸入原料価格」と「配合飼料価格」の 2 つを補填発動の算定基準としていましたが、本年度 7 月から「輸入原料価格」は除かれ、「配合飼料価格」のみが算定基準となります。

この事業は燃油や配合飼料の価格高騰の影響を直接緩和する唯一の事業となっていますので、多数の漁業者の加入をお願い致します。

なお、事業実施主体は「一般社団法人漁業経営安定化推進協会 (東京)」となっていますが、詳しい内容を知りたい方は漁連指導部までご遠慮なくお問い合わせ下さい。

(指導部 担当:堤 TEL059-228-1205)

## お知らせ

「カワハギ類養殖の現状と展望」  
- 9/19 津市・三重大学で講演会開催 -

近年、魚価の低迷や飼料・燃油の高騰などにより、魚類養殖業は厳しい状況に置かれおり、付加価値の高い養殖対象魚種の開発・導入に期待が寄せられています。

このような中で、下記の日程で開催される日本水産学会水産増殖懇話会において「カワハギ類養殖の現状と展望」と題して講演会が行われることになりました。

同講演会開催の趣旨によると、「カワハギ類は成長や餌料効率が良く、天然魚よりも肝臓が大きくなることから、販売単価も高く、近年では単独養殖が盛んになってきました。養殖用種苗の人工生産技術に関しては、大量の受精卵を確保できる採卵方法が開発されるなど、量産規模での生産が可能になりつつあります。」とのことです。

同講演会では、6名の研究者からカワハギ類養殖に関する研究内容や技術開発事例などが紹介される予定となっています。

同講演会の事務局では、「県内の養殖業者や漁協関係者の多数の参加をお待ちしています」とのことです。是非ともご参加下さいますようお願いいたします。

## 記

1. 日 時 平成 25 年 9 月 19 日 (木)  
13:00~17:00
2. 場 所 三重大学 共通教育校舎  
第 3 号 1231 番教室  
※近鉄「江戸橋駅」から徒歩 15 分
3. 参加費 無料
4. 問い合わせ先  
三重大学大学院 生物資源研究科  
一色 正 Tel.059-231-9531  
Email issniki@bio.mie-u.ac.jp

## 白塚漁師塾が開校

-担い手・後継者確保に向けて-

漁業者の減少や高齢化が進む中、将来にわたって漁業が持続的に発展していくためには、意欲のある新規就業者の確保が重要となっています。

そのような中で、津市の白塚漁協では、19歳の青年が漁師見習いとして地元組合員から指導を受けています。この青年は漁家出身ではありませんが、小さい頃から漁師にあこがれていて県内の高校を卒業と同時に、自ら進んで漁協の門をたたいたという頼もしい若者です。

そこで、同漁協では国および県の補助事業を活用して、1日でも早く「一人前の漁師」に近づくことができるように、漁業の技術や知識を学ぶ場として「漁師塾」を設けることにしました。

27日に白塚漁師塾の開校式が行われ、伊藤組合長から研修生に入塾証が渡されまた新たな気持ちで漁業習得に励んでもらうことになりました。

同漁師塾のカリキュラムでは、座学として漁業法や漁協の制度・仕組みのほか、流通現場への視察等も組み込まれています。



研修生に入塾証を渡す伊藤組合長

本文の無断転載・転用等は固くお断りします。